

KJ・US工法の新製品
CR継手/愛称:更新君
専用部台所流し系統の立て管更新に

規制治具KJは
 施工の正確性を追求した
 見える化技術です。

専用部に排水立て管を設備する新築の集合住宅において、油脂分や厨芥生ごみの付着により管狭小化が著しく、更新の必要性が高い台所流し系統だけでも、更新性に優れたKJ・US工法によって施工されていれば、経年後の立て管更新工事が行い易くなります。(備考:60年を超えて居住していただけるように)

●CR継手 (CR100×50) 更新君



写真1
 規制リブ付排水用特殊継手
 CR継手 (CR100×50)
 更新君

台所流しのみからの排水を受け持つ一体型の排水用特殊継手です。

特徴

- ①更新性に必要な規制リブを備えた、KJ・US工法の施工が可能な仕様
 KJ・US工法の最大の特長は、やり取り代60mmを目視確認できることです。
 やり取り代が目視確認できないと、経年後の更新性が担保されません。
- ②上部立て管受け口にリングパッキンを備えた、更新時に立て管を引き抜き易い仕様

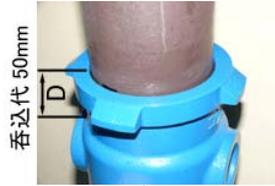


写真2
 CR継手と立て管との接合



写真3
 CR継手とUS継手との接合

施工上のお願
 やり取り代 D2 が 60mm 以上
 75mm 以下となるように施工
 して下さい。

■寸法差 10mm

$D2 - D = 10mm$
 立て管下端を横方向へ振るために必要な
 隙間寸法(くぐり代G)は上記の通り確保
 されます。

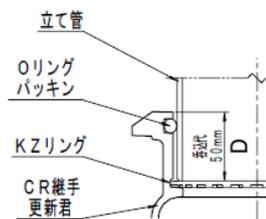


図1
 CR継手と立て管との接合図

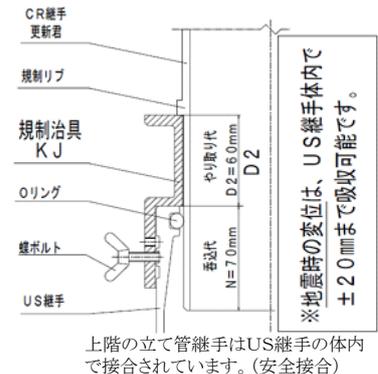


図2
 CR継手とUS継手との接合図

※地震時の変位は、US継手体内で
 ±20mmまで吸収可能です。
[現場応用]
 $D2 = 60mm + 10mm$ 用として利用
 する場合には、規制治具の調節用
 蝶ボルトの位置で高さを決めます。

●CR継手(更新君)のKJ・US工法とは

規制治具KJと受ロソケットUSを用いて、CR継手(更新君)の差し口に設けた規制リブKの下側に、やり取り代60mm(および呑込代70mm)を確保する工法です。

●CR継手、US継手の漏れ試験

CR継手とUS継手の受け口は、ともにリングパッキン仕様です。
 オリング接合部の漏れ試験を下記の条件で行いましたので、その結果を報告します。

No	内容	圧力	保持時間	結果
1	水張り	7kPa	30分	漏れなし
2	満水	50kPa	60分	漏れなし
3	人力加振水張り	7kPa	60回加振中、後30分	漏れなし
4	人力加振満水	50kPa	60回加振中、後60分	漏れなし



満水試験状況



加振時、5°変位した状態での満水試験状況

詳細は下記をご参考下さい。

- 規制治具KJ, 受口付ソケットUSについては”2008-9 COREカタログ42~43ページ”をご参考下さい。
- CR継手:更新君を使用した配管長割出し表は、次号をご参照下さい。
- ホームページ技術レポート2008.12.27号
 *ノンハブカップリングを使用した工法に代えて、KJ・US工法を開発しました。
 上階の立て管継手の管端はUS継手の体内で接合されています。(安全接合)